

丹沢山地で確認されたオヒキコウモリについて

山口 喜盛・山口 尚子

Yoshimori Yamaguchi and Naoko Yamaguchi: Notes on Oriental Wrinkled-Lipped Bat *Tadarida insignis* Found in the Tanzawa Mountains

はじめに

オヒキコウモリ *Tadarida insignis* は、1990 年代まではわずかな個体が単独で偶然発見される程度であったので、国内では繁殖せず、大陸から迷行するものと考えられてきた。環境省 RDB (1998) でも「情報不足」(評価するだけの情報が不足している種)とされてきた。ところが、1996 年に宮崎県の離島で初めて集団生息地が確認され、その後、西日本で集団生息地が見つかるようになり、少しずつ生息状況がわかってきた。環境省は 2007 年に見直した RDB において「絶滅危惧 IB 類」と位置づけた。

現在、国内でわかっている集団生息地は宮崎県、高知

県、京都府、広島県、三重県の 5 カ所と考えられる。また、単独個体の記録は北海道から九州にかけて 10 数例が知られる程度である(阿部ほか, 2005)。神奈川県では冬期の記録が 2 例ある。1977 年 2 月に小田原市のビルで捕獲された例(Yoshiyuki, 1989)と、1984 年 1 月に南足柄市の市街地の路傍で死体が拾得された例(浜口・一寸木, 1985)である。

著者らは、丹沢山地の玄倉川流域においてコンクリートの隙間で休息するオヒキコウモリ 1 頭を確認した。オヒキコウモリの確認例は少なく、県内では 3 例目の記録となることから、ここに確認状況を報告する。



図 1. コンクリートの隙間に潜むオヒキコウモリ。



図 2. オヒキコウモリの大きな耳介は、丸みを帯び、前基部で結合している。



図 3. オヒキコウモリの特徴である尾膜から突き出た尾。



図 4. 隧道と洞門の隙間のある位置。

確認状況

2008 年 4 月 3 日 16:00 頃、山北町玄倉の青崩隧道とその洞門の隙間に潜む 1 頭のコウモリを見つけた。双眼鏡で見たところ尾膜から突き出た長い尾のようなものが確認できたことから（図 1）、オヒキコウモリの可能性が考えられたため、17:20 頃、捕虫網を使用して捕獲した。

捕獲したコウモリは、丸みを帯び前基部で結合している大きな耳介（図 2）、尾膜から突き出た尾（図 3）の

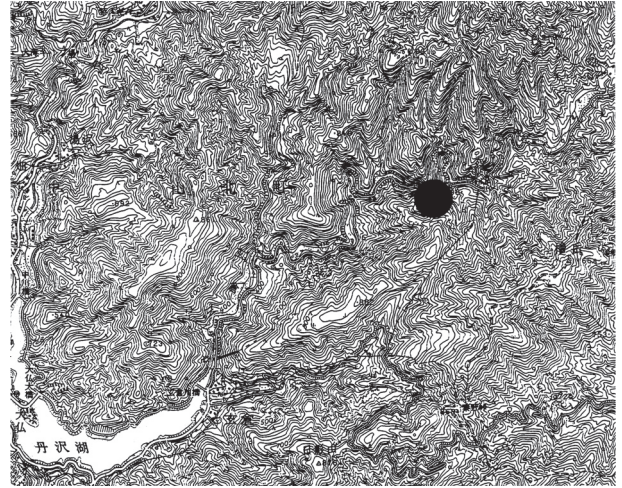


図 5. オヒキコウモリが見つかった位置。国土地理院発行 5 万分の 1 地形図「山北」を使用。



図 6. オヒキコウモリが見つかった青崩隧道と仏岩。

特徴により、オヒキコウモリと同定した。この個体は、体重 31g、前腕長 6.15、尾長 4.12 のオスであった。

本個体が潜んでいたのは、コンクリート製の隧道と洞門の間の隙間であった（図 4）。この隙間の幅は約 3cm、奥行きは約 15cm、地上高約 5m であった。本個体はこの隙間に入り込み下垂していた。この場所は、例年秋から春に数頭から 10 数頭のヒナコウモリが越冬利用しているところであったが、このときヒナコウモリは見られなかった。

青崩隧道は丹沢湖から玄倉川の上流約 6 km に位置し（図 5）、オヒキコウモリが確認された場所は標高約 590m であった。青崩隧道の山腹一帯は岩場であった（図 6）。玄倉川は急峻な渓谷を形成し、標高 1,000m から 1,500m の峰に囲まれていた。周辺はミズナラ、ブナ、モミ、カエデ類などの自然林やスギ、ヒノキの人工林に覆われていた。

なお、オヒキコウモリの捕獲は「環境省第 071002001 号」と「神奈川県第 1001-04 号」の捕獲許可により行い、本個体は計測後放野した。

まとめ

著者らは2001年から継続して、玄倉川流域の隧道内をねぐらに利用するコウモリ類を調査している。2003年10月からこの隙間も調べているが(山口, 2006), オヒキコウモリを確認したのは今回が初めてであった。また, オヒキコウモリの仲間は季節によって長距離を移動することが知られており, 宮崎県と高知県の離島のねぐらでは, 夏季に個体数が増加し, 秋冬季にはほとんどが他所に移動してしまうと考えられていることから(船越他, 1999; 船越・山本, 2001), 春先に確認された今回の個体は移動中に偶然見つかった可能性が高い。しかし, 過去に小田原市や南足柄市で冬期に見つかっていることと, 著者らは秋から春にかけて, オヒキコウモリが飛翔中に出す可聴音と思われる鳴き声を丹沢湖畔や玄倉川流域で聞いていることから, 小田原から丹沢山地の酒匂川流域に冬眠場所がある可能性も否定できない。国内で見つかっている確認場所は切り立った岩場や人工構造物などなので, 玄倉川流域の岩場や下流域のコンクリート構造物などで見つかるかも知れない。今後も情報収集が必要である。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・船越公威・前田史和・佐藤美穂子・小野宏治, 1999. 宮崎県枇榔島に生息するオヒキコウモリ *Tadarida insignis* のねぐら場所, 個体群構成および活動について. 哺乳類科学, 39(1): 23-33.
- 船越公威・山本貴仁, 2001. 高知県浦葵島からのオヒキコウモリ *Tadarida insignis* 生息地の新記録. 哺乳類科学, 41(1): 87-92.
- 三浦慎悟・米田政明, 2005. 日本の哺乳類. 256pp. 東海大学出版会, 東京.
- 浜口哲一・一寸木 肇, 1985. 南足柄市で発見されたオヒキコウモリについて. 神奈川自然誌資料, (6): 37-40.
- 山口喜盛, 2006. 丹沢山地玄倉川流域におけるコウモリ類の隧道利用の季節変動. 神奈川自然誌資料, (27): 45-49.
- Yoshiyuki, M., 1989. A sytematic study of the Japanese Chiroptera. National Science Museum Monographs, (6): 1-242.

山口喜盛・山口尚子：丹沢自然保護協会